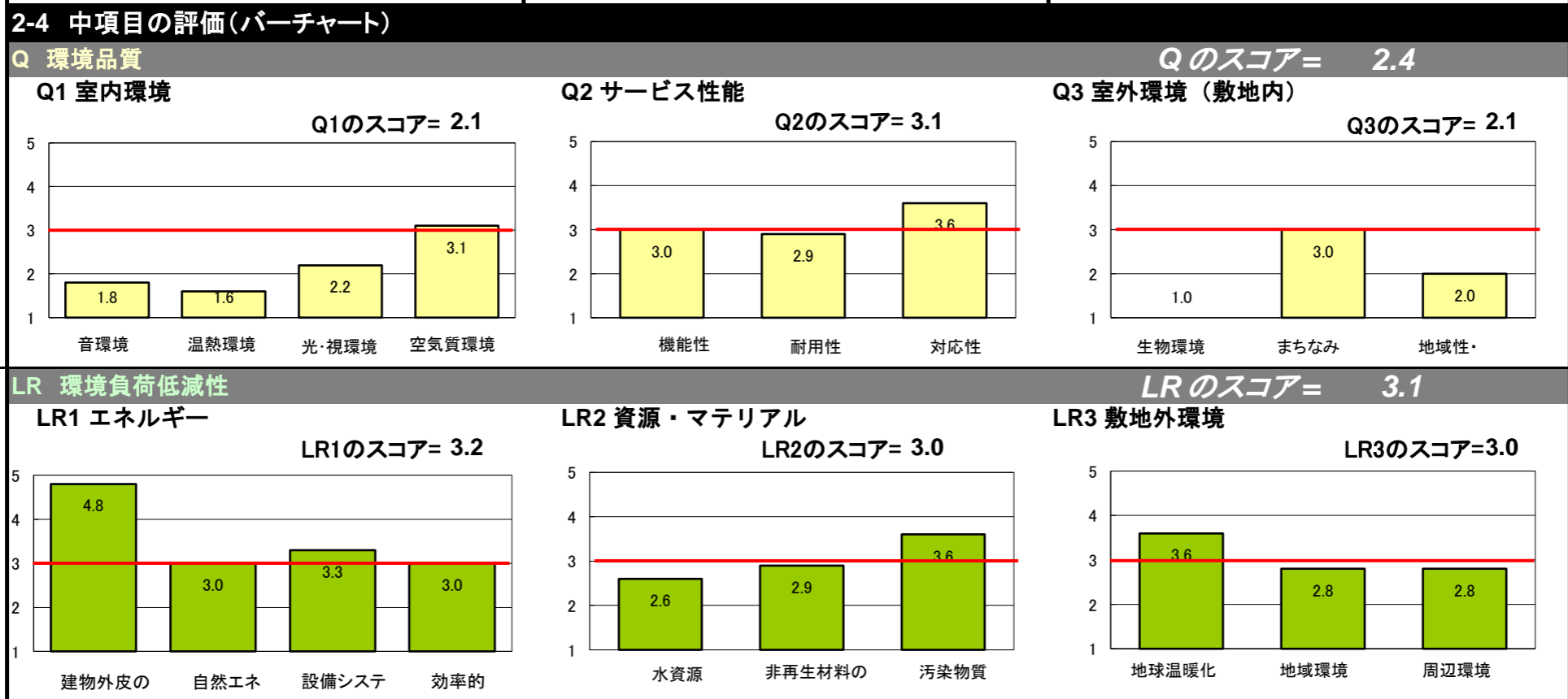
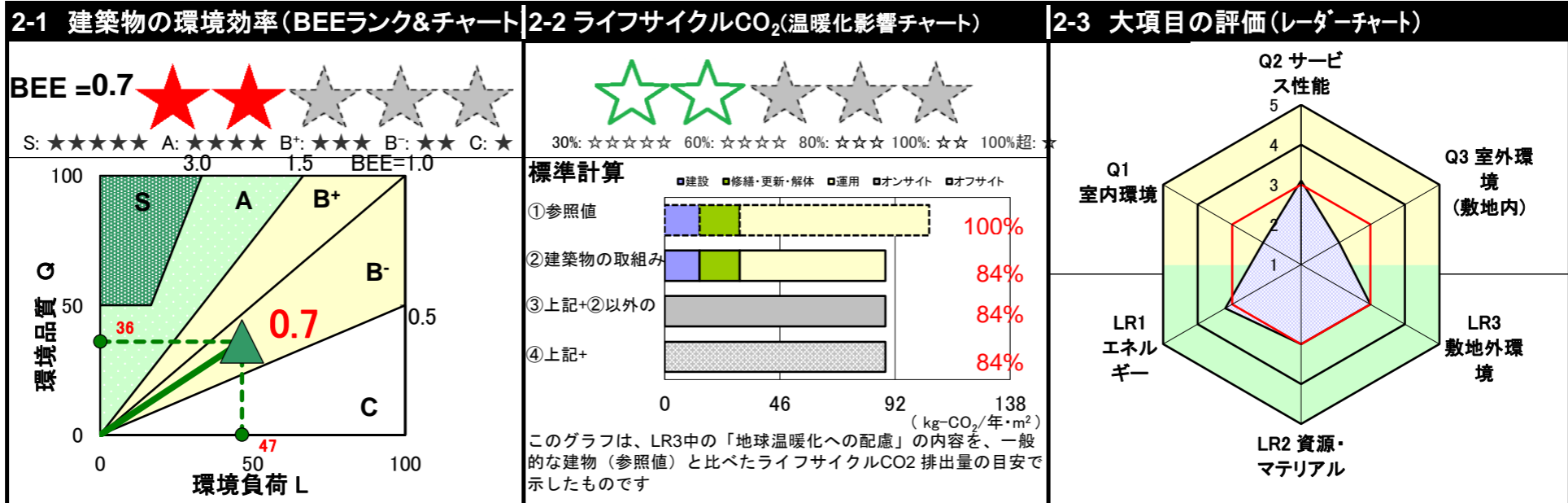


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社ダイナモ瀬戸工場	階数	地上2階
建設地	愛知県瀬戸市中水野町一丁目379-1	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	100人
気候区分	6地域	年間使用時間	318,500時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年6月 竣工	評価の実施日	2019年7月11日
敷地面積	7,870 m ²	作成者	天津 一裕
建築面積	3,380 m ²	確認日	2019年7月11日
延床面積	4,049 m ²	確認者	天津 一裕



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.6</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>48.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体						
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体							
		Q 建築物の環境品質														2.4					
Q1 室内環境														2.1							
1 音環境														1.8							
1.1 室内騒音レベル														3.0	1.0	0.40	-	-	-	-	-
1.2 遮音														0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能														-	3.0	0.60	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能														-	3.0	0.40	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-	-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音														-	1.0	0.20	-	-	-	-	-
2 温熱環境														0.3	1.6	0.35	-	-	-	-	-
2.1 室温制御														0.5	2.2	0.50	-	-	-	-	-
1 室温														3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	-
2 外皮性能														3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性														3.0	1.0	0.38	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御														3.0	1.0	0.20	-	-	-	-	-
2.3 空調方式														3.0	1.0	0.30	-	-	-	-	-
3 光・視環境														0.2	2.2	0.25	-	-	-	-	-
3.1 昼光利用														0.3	2.4	0.30	-	-	-	-	-
1 昼光率														3.0	2.0	0.60	-	-	-	-	-
2 方位別開口														-	-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備														3.0	3.0	0.40	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策														0.3	1.0	0.30	-	-	-	-	-
1 昼光制御														5.0	1.0	1.00	-	-	-	-	-
3.3 照度														3.0	3.0	0.15	-	-	-	-	-
3.4 照明制御														3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-
4 空気質環境														0.2	3.1	0.25	-	-	-	-	-
4.1 発生源対策														0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質														3.0	4.0	1.00	-	-	-	-	-
4.2 換気														0.3	2.3	0.30	-	-	-	-	-
1 換気量														3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-
2 自然換気性能														3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮														3.0	1.0	0.33	-	-	-	-	-
4.3 運用管理														0.2	2.0	0.20	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視														3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御														3.0	1.0	0.50	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能														-	-	0.30	-	-	-	-	-
1 機能性														0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ														0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性														3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応														3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画														3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性														0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0	4.0	0.33	-	3.0	-	-	-
2 リフレッシュスペース														3.0	4.0	0.33	-	-	-	-	-
3 内装計画														3.0	1.0	0.33	-	-	-	-	-
1.3 維持管理														0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計														3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保														-	3.0	0.50	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性														0.3	2.9	0.31	-	-	-	-	-
2.1 耐震・免震・制震・制振														0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能														3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数														0.3	2.9	0.33	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数														-	3.0	0.23	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														-	2.0	0.23	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														-	3.4	0.09	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														-	3.0	0.08	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														-	4.0	0.15	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔														-	3.0	0.23	-	-	-	-	-
2.4 信頼性														0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	-
1 空調・換気設備														3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備														3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-
3 電気設備														3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法														3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-
5 通信・情報設備														3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性			0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	4.2m	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.21	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.38	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m 0.82	3.0	4.8	0.07	-	-	-	4.8
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.26	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI _m 0.77	3.0	3.3	0.40	-	-	-	3.3
4 効率的運用			0.2	3.0	0.27	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	2.6	0.15	-	-	-	2.6
1.1 節水			3.0	2.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.9	0.63	-	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	3.0	2.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.2	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	2.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	
2	振動	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	2.3	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	2.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10
② 資源の有効活用			3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11
			外構緑化:48.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社ダイナモ瀬戸工場

計画上の配慮事項	
総合	更新必要間隔の長い内装仕上げ材を使用する、躯体から仕上げ材の分別を容易化するなど、環境に配慮した建物となっている。十分な外光による照度の確保や高い階高など、利用者にとって開放的な執務空間が得られている。
Q1 室内環境	開口部を大きく取ることで、十分な採光を確保している。F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用しており、室内の空気環境に配慮している。
Q2 サービス性能	更新必要間隔の長い内装仕上げ材を使用したり、空間的自由度を確保したりして、建物の長寿化を図っている。また、階高のゆとりやリフレッシュスペースを設けることにより、利用者にとっての快適さが得られている。
Q3 室外環境(敷地内)	芝生や高木を設け、敷地内の緑化に関する取組みを行っている。メッシュフェンスを設置しており、防犯性を高めている。
LR1 エネルギー	LED照明により、設備システムの高効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	躯体から仕上げ材の分別を容易化して、解体時の資源再利用に配慮している。また、発泡剤を用いた断熱材を使用しておらず、地球温暖化防止のための取組みを行っている。
LR3 敷地外環境	建物運用時のCO2排出量を抑え、地球温暖化への配慮を行っている。来客・職員用の駐車場を確保しており、建物の運用時に交通負荷が発生しないよう取組みを行っている。
その他	特になし